



親の過保護・過干渉

子どもがすることに口を出したり甘やかしてしまったり…。
“つついやってしまう”日常生活のあれこれ。
NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事の高祖先生に
「親の過保護」についてお話をお伺いしました。
これをきっかけに子どもとの関わり方について考えてみては？

Q.どこからが過保護と呼ぶか分かりません。気付いていないだけで過保護になってしまっているのかも…。

「過保護」と「過干渉」という言葉があります。子どもの安全を守るために関わりは必要ですが、それが行き過ぎると過保護ということになってしまいます。過干渉も同じですね。干渉し過ぎることが過干渉。子どもの力を信じずに、親が手を出したり口を出し過ぎること。かどうかを基準に考えると良いかと思いません。

Q.よくみられる過保護の具体例として、どのようなものがあるか教えてください。

子どもはいろいろな経験をし、経験から学び成長していきます。たとえば小さな子どもなら、

服の着替えを自分でしたいのに時間がかるからと親がすべてやってあげるのも過保護・過干渉に入ります。子どもの自分でやりたい気持ちを尊重して大きなボタンの服を用意してあげるなど、チャレンジできる環境を整えてあげるのが親の役割ではないでしょうか。小学生なら、親がすべて翌日の準備をしてあげるのは過保護・過干渉です。年齢や個性にもよりますが、準備を手伝ったり促したり子どもが準備しやすい方法を一緒に考えてあげることが大切です。

Q.そもそもなぜ過保護になってしまうのですか？
親の人生背景と関係しているのでしょうか。

過保護になってしまう親御さんは、自分自身が失敗を恐れる人が多いように思います。自分自身も失敗するのが嫌なので、子どもにもなるべく失敗させないようにと先回りしてやってしまいがちです。子どもの失敗が親の失敗のように感じてしまう人が多いのも特徴でしょう。

Q.過保護・過干渉に育てられた子どもは、将来どのような大人になってしまいますか？

失敗しないように「しなさい」ばかり言う親が過保護・過干渉になると、子どもが失敗する経験はもろろん自分から選ぶ経験、自らやってみる経験が奪われてしまいます。常に親に指示されたことをしたり、最後は親がどうかにかしてくれと思うと、自分から友達と相談して解決する経験ができません。将来大人になったときに、自

ら考え他の人とコミュニケーションをとって問題を解決していくことが難しくなります。大人になったら親が干渉するわけにもいきませんから、経験がないためにちよつとの失敗でも落ち込みが激しかったり、失敗から学んでいくということができなくなってしまう。

Q.過保護にならないために、今からできることは？
子どもと接するときの注意点があれば教えてください。

将来、我が子にどんな大人になってほしいと思うでしょうか。自分で考え道を切り開く人や、人を思いやる人間になってほしいというのは、世界共通の親の願いだそうですね。子どもは親と別の人格です。親はあくまでも子どもの成長をサポートする役割と考えましょう。子どもが自ら体験して考えられるように、保護し過ぎず、干渉し過ぎず、子どもの成長に合わせて見守ってサポートすることが一番大切なことだと思います。

教えてくれたのは…
高祖常子先生

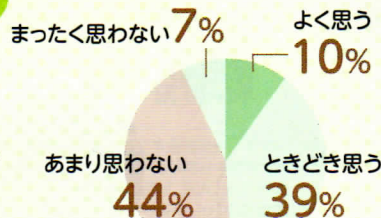


Profile

NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事、育児情報誌「miku(ミク)」編集長、NPO活動や育児情報誌の編集・執筆・講演などを通して、親としてのあり方や親子の関わり、ポジティブな子育てについて伝えている。3児の母。

まみたん
会員さんに
聞いてみました!!

Q子どもに対して過保護・過干渉だなど
思うことはありますか？



どんなときに過保護・
過干渉だと思いますか？

- 子どもが成長しているのに、手のかけ方が小さい頃のままだったとき。(セブン)
- 何をしても「危ないから気をつけて!」と言ってしまったり、買い物へ行くと必ず欲しいお菓子を買ってあげたり…。(匿名希望)
- 子どもが失敗する前に手助けしてしまう。(しおりんのママ)
- 本人がチャレンジしようとしているのに「～の方が良いんじゃない?」などと言ってしまおう。(まさきママ☆)